

# 平成29年度 事業別実績報告

特別養護老人ホーム 信楽荘

平成30年6月4日

## 1、総括

### 2、年間入所(利用)者数 (29.4.1~30.3.31)

平成30年6月4日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
種別													
延人数	3,077	3,186	3,103	3,210	3,172	3,066	3,192	3,113	3,230	3,105	2,928	3,208	37,590
利用人数	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	1,296
当月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
1日当り平均人員	102.6	102.8	103.4	103.5	102.3	102.2	103.0	103.8	104.2	100.2	101.0	103.5	102.7
入所者数	1	3	0	1	3	1	3	1	1	2	3	1	20
退所者数	2	3	1	2	1	2	3	0	1	3	2	2	22

入院者数	98	158	130	122	163	201	133	180	108	211	74	147	1,725
1日当り平均人員	3.3	5.1	4.3	3.9	5.3	6.7	4.3	6.0	3.5	6.8	2.6	4.7	4.7

### 3、信楽荘施設全体職種別職員数 (30年3月31日現在)

職種 形態	施設長 管理者	副施設長	事務長	課長	管理職 合計	総務	介護支援	生活	看護師 機能訓 練指導 員	介護員	管理 栄養士	調理員	業務員	職員 合計
						事務	専門員	相談員						
施設全体(SS含)	正職	1	1	1	5	8	5	2	2	4	41	1	5	60
	パート						2			5	15		2	5
デイサービス	正職 (兼務)	1			1	1		1	1	7				9
	パート								1	2			2	5
グループホーム	正職 (兼務)	1				1				8				8
	パート							1		10				11
居宅支援	正職 (兼務)	1			1	1		3						3
	パート						1	1						2
合計		4	1	1	7	13	8	7	3	11	83	1	7	7

### 4、年間行事実施内容

別紙の通り

### 5、各種職員研修および会議、介護体験・ヘルパー・介護福祉士養成学校実習受入、

施設交流訪問、各種慰問等ボランティア、各種奉仕、荘内会議・委員会、

別紙の通り

### 6、その他

# 平成29年度 事業別実績報告

## 1、小規模特養(従来型多床室) [定員:30名]

平成30年6月4日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
延べ人員	866	910	882	930	884	892	926	822	869	818	799	881	10,479
当月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
1日当り平均人員	28.9	29.4	29.4	30.0	28.5	29.7	29.9	27.4	28.0	26.4	27.6	28.4	28.6
稼働率(%)	96.2	97.8	98.0	100.0	95.1	99.1	99.6	91.3	93.4	88.0	91.8	94.7	95.4
利用金額(万円)	1,295	1,304	1,294	1,259	1,430	1,293	1,334	1,319	1,298	1,305	1,307	1,314	13,744

## 2、ユニット型特養 [定員:60名]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	720
延べ人員	1,671	1,720	1,695	1,763	1,752	1,651	1,767	1,761	1,815	1,781	1,609	1,769	20,754
当月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
1日当り平均人員	55.7	55.5	56.5	56.9	56.5	55.0	57.0	58.7	58.5	57.5	55.5	57.1	56.7
稼働率(%)	92.8	92.5	94.2	94.8	94.2	91.7	95.0	97.8	97.6	95.8	92.5	95.1	94.5
利用金額(万円)	2,332	2,306	2,269	2,362	2,348	2,243	2,391	2,323	2,449	2,408	2,185	2,415	28,005

## 2、ショートステイ [定員:18名]

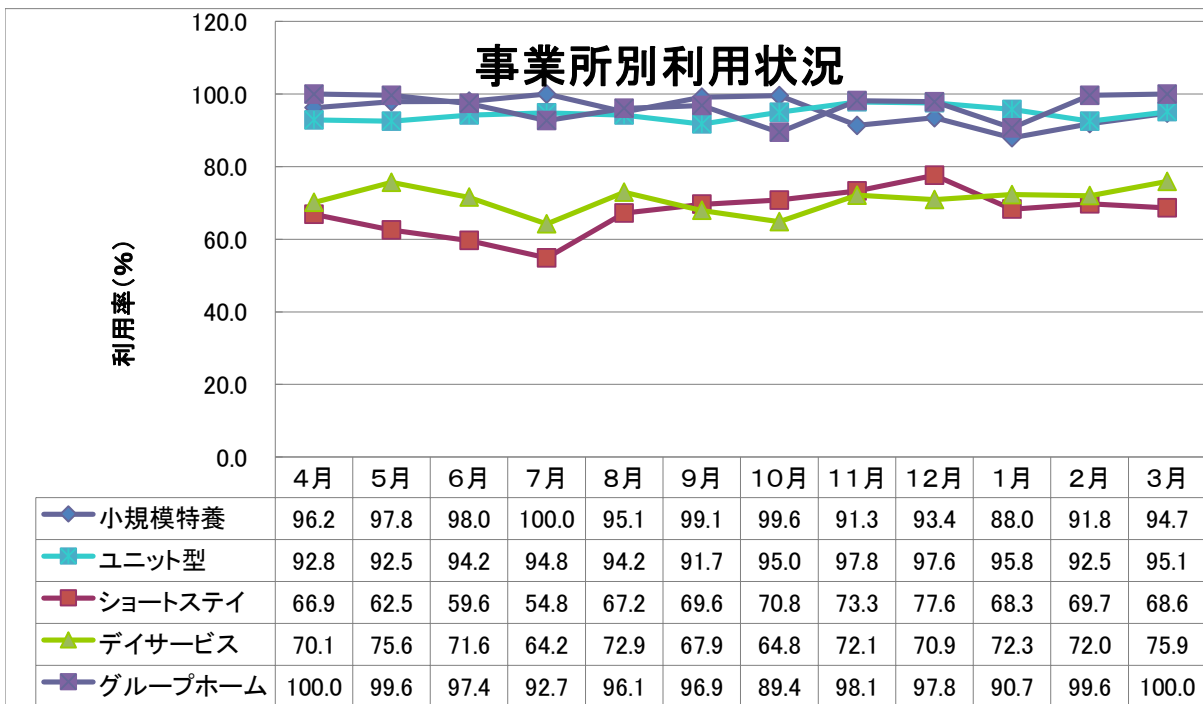
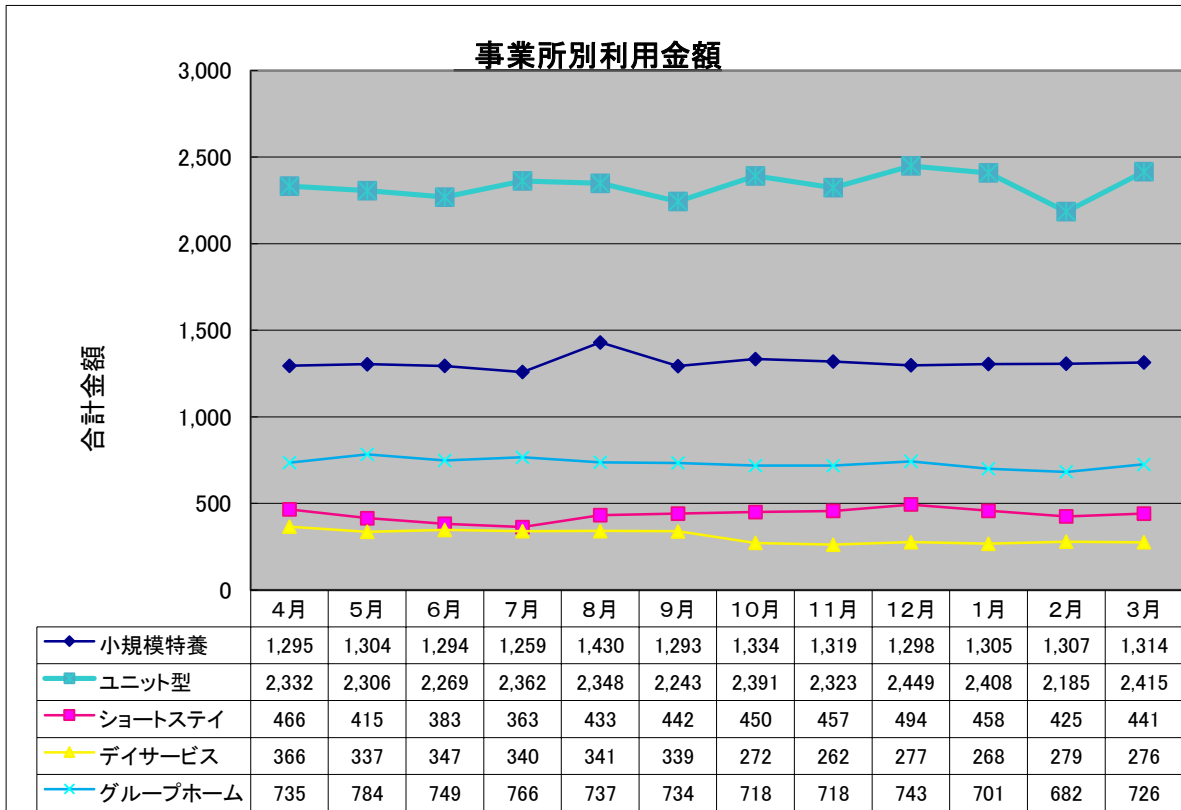
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人員	361	349	322	306	375	376	395	396	433	381	364	383	4,441
当月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
1日当り平均人員	12.0	11.3	10.7	9.9	12.1	12.5	12.7	13.2	14.0	12.3	12.6	12.4	12.1
稼働率(%)	66.9	62.5	59.6	54.8	67.2	69.6	70.8	73.3	77.6	68.3	69.7	68.6	67.4
利用金額(万円)	466	415	383	363	433	442	450	457	494	458	425	441	5,175

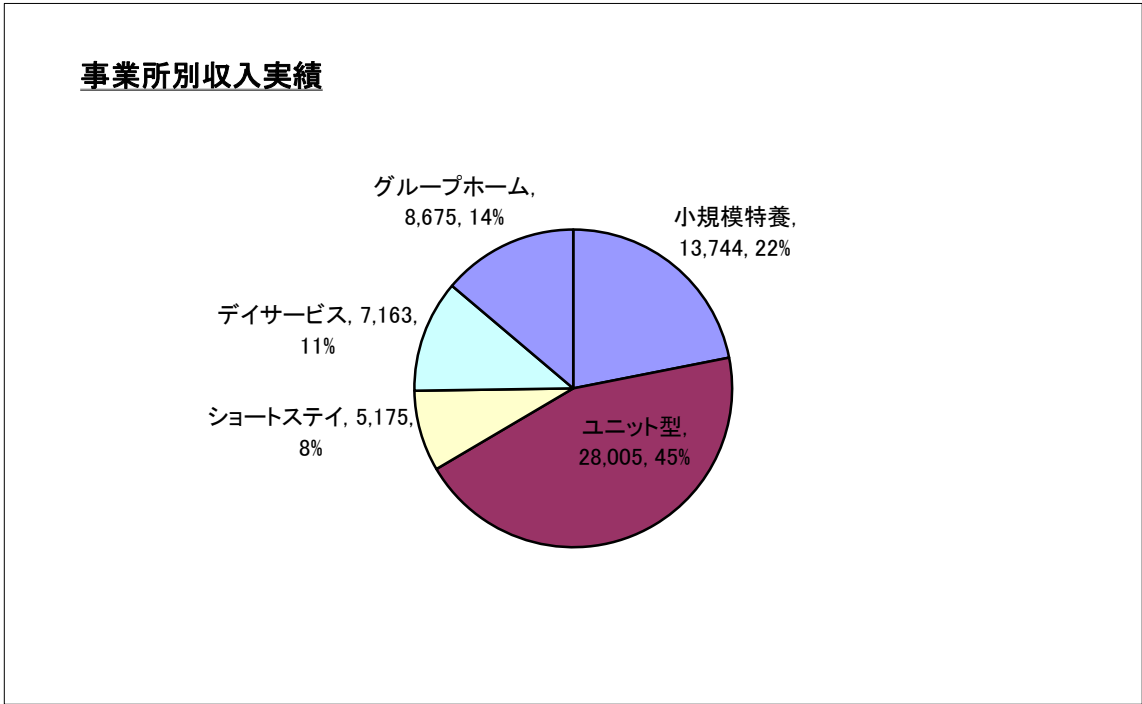
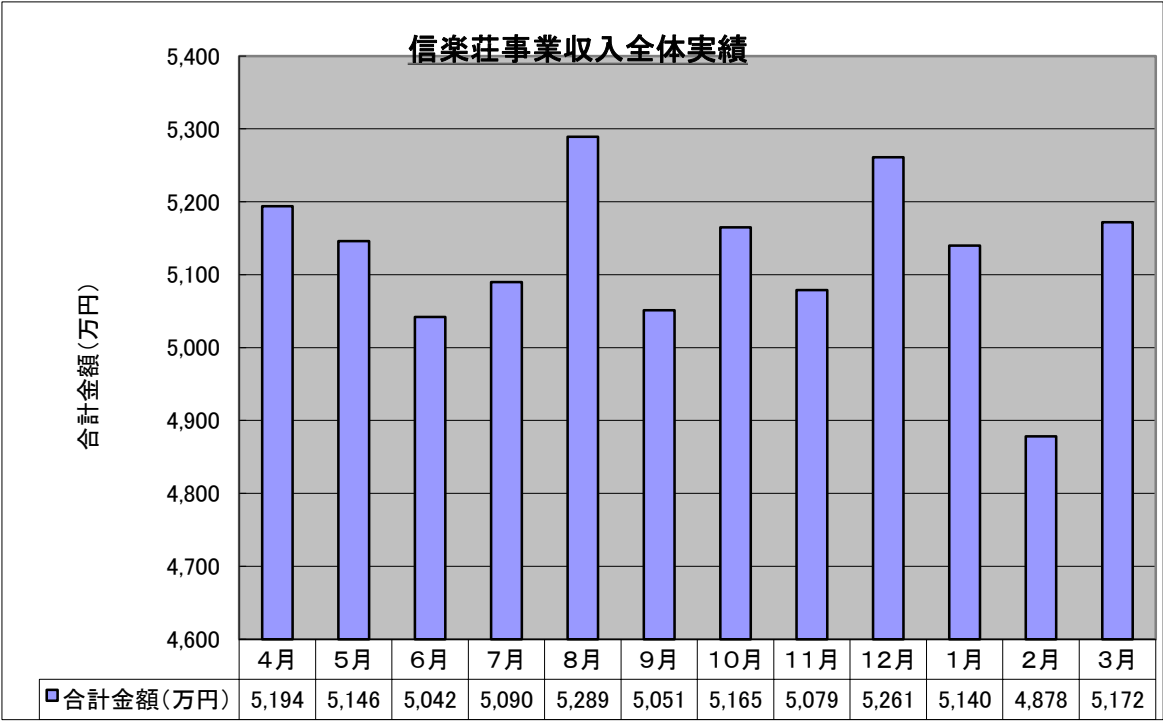
## 3、デイサービス(通常型) [定員:35名]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人員	540	556	526	517	536	523	499	530	546	506	504	558	6,341
当月日数	22	21	21	23	21	22	22	21	22	20	20	21	256
1日当り平均人員	24.5	26.5	25.0	22.5	25.5	23.8	22.7	25.2	24.8	25.3	25.2	26.6	24.8
稼働率(%)	70.1	75.6	71.6	64.2	72.9	67.9	64.8	72.1	70.9	72.3	72.0	75.9	70.8
利用金額(万円)	366	337	347	340	341	339	272	262	277	268	279	276	7,163

## 4、グループホーム [定員:18名]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
延べ人員	540	556	526	517	536	523	499	530	546	506	520	558	6,357
当月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
1日当り平均人員	18.0	17.9	17.5	16.7	17.3	17.4	16.1	17.7	17.6	16.3	17.9	18.0	17.4
稼働率(%)	100.0	99.6	97.4	92.7	96.1	96.9	89.4	98.1	97.8	90.7	99.6	100.0	96.5
利用金額(万円)	735	784	749	766	737	734	718	718	743	701	682	726	8,675





# 平成29年度 信楽福祉会 信楽荘 事業報告

社会福祉法人 信楽福祉会

## 社会福祉事業

### (1) 第1種社会福祉事業

特別養護老人ホーム「信楽荘」

小規模特養	30名
ユニット型特養	60名

### (2) 第2種社会福祉事業

(イ) 老人デイサービス事業 「信楽荘デイサービスセンター」

通常型通所介護 定員 40名

(月～金曜日) (H29年6月より35名)

(ロ) 老人短期入所事業 「信楽荘ショートステイサービス」

定員 18名

(ハ) 認知症対応型共同生活介護 グループホーム笑楽

2ユニット18名

## 公益事業

### (1) 信楽荘居宅介護センター

# 平成29年度 社会福祉法人 信楽福祉会 事業報告

## 基本理念

1. 誰もが住み慣れた地域の中で、安全かつ安心して普段と変わらない、その人らしい生活が続けられるような憩いの場を提供します。
2. 家族や地域の方々にサポートしていただきながら、ご利用者の立場にたち、プライバシーや基本的人権を配慮しながら、その人らしい自律した社会生活が送れるよう温かいサービスの提供を目指します。

## 信楽荘

### 「信楽荘 理念」

Welfare しがらき 共に笑い 伴に生きる  
(繋がる幸せ 広がる幸せ)

### 「信楽荘 職員の心構え」

- 一. 私たちは、「思いやりのある」「温かい心」で介護に努めます。
  - 一. 私たちは、「謙虚な姿勢」で「誠意ある質の高いサービス」に努めます。
  - 一. 私たちは、「専門職」として「技術の向上」をめざし最善を尽くします。
  - 一. 私たちは、「愛され」「親しまれ」「信頼されている」施設をめざします。
- 基本的理念を達成するため「信楽荘職員の心構え」を全員が周知徹底し、職員のモラルの向上を図りご利用者へのサービス向上に努めました。

## 特別養護老人ホーム 信楽荘 施設介護課（ふらわぁ）

毎日を笑顔で過ごせるよう、思いやりのある、温かい心で介護に努めて参りました。入居者一人ひとりの持っている「こだわり」や、一人ひとりが生きてこられた歴史を大切に、その人がその人らしく暮らせるような支援に努めてきました。生活空間については、入居者の状態や好みに合わせて、生活の場のしつらえを変更しながらくつろげる空間の提供にも努めました。職員・入居者の身体的な負担軽減のために、介助用リフト・スライディングボードでの移乗を推進、徹底してきました。入居者に随時希望を聞きながら、外食・外出の機会を設け生活の中での楽しみ、目標を作れるよう努めました。職員については、質の向上のために随時課題について話し合い統一したケアが出来るようにしました。又毎月の定例会議で担当の職員が勉強会をおこない、知識の補充・再確認をしました。入居者がお亡くなりになられたときは、デスカンファレンスを開催しケアについて振り返りその後のケアに活かせるよう努めました。

「信楽荘職員の心構え」とは別に「施設介護課の標語」をつくり、毎日唱和しケアの向上に努めました。

### **短期入所生活介護（ショートステイ たんぽぽ）**

安心・安全に利用していただけるようにサービス提供を行いました。緊急な利用依頼についても出来る限り受け入れ対応をしました。毎日の定例会議では、転倒・転落リスクについて情報を共有し居室環境整備の見直しを行いました。

介護リフト、スライディングボード、スライディングシート等の福祉用具を必要な利用者に使用し、安心・安全な介護の実践に努めました。

日中活動として、脳トレーニング、色塗りの材料を準備して楽しんでいただけるよう出来る限りの対応に努めました。

体調不良時は訪問看護サービス（日常的に利用されている利用者について）と連携し出来るだけ早く医療に繋げるよう努力しました。引き続き新規利用のご家族様には、事前の施設見学、施設の特性やリスクについて詳しい説明を行いました。

感染症（インフルエンザ・ノロ等）流行前には、ショートの受け入れについて事前の話し合いの機会を設けることができ感染症予防対策がしっかりできました。感染症警戒時期のショート受け入れ（迎え時）の検温についてもご家族様にご理解をいただき実施することができました。

### **ユニット棟（青空・大樹・煌き）**

入居者に自分が必要とされていることを感じてもらえるよう一人ひとりの可能性や能力を探っていき生活意欲が高まるような工夫をしてきました。入居者と職員の壁を作らずに共に歩んで行けるよう最善を尽くしました。

今の時間を大切に、「ここに入居してよかった」と思われることをコンセプトに、市内・県外の外出・農作物耕作・おやつ作りなどを実施しました。

定期的に外出や行事の計画を企画し、少しでも笑っていただけるような取り組みを行っています。特に好評なのが居酒屋レクでした。日々味わうことが出来ない雰囲気や、職員と一緒に楽しみました。

入居者を支える職員には、定期的な研修・定例会議・介護福祉士取得のための実務者研修受講・勉強会実施など個々の職員能力を存分に発揮して、持つ能力が決して無駄にならないように取り組みました。

### **グループホーム笑楽**

グループホーム笑楽は開設から5年が経ち、この1年の間に2名の入居者が死亡、2名が併設の特養に移動しました。今季冬は、インフルエンザ、ノロウイルスの感染者はなくこまめな消毒や清掃・換気を徹底的に実施したことと感染症警戒時期には、家族さんのご理解を

得て外部との面会をお断りしたのがこの結果に繋がったと思っています。転倒の危険から見守りの必要な方も多くなってきています。ご本人の意志を尊重しつつ職員が協力しあい自己の防止に努めました。入居者の方も心配で声をかけてくださることもあり、共同生活でのお互いの助け合いが開設から5年が経ち形ができてきたものと感じています。

6月には外部評価があり、大変高い評価をいただきました。

## 通所介護（デイサービス）

デイサービスセンターでは、信楽荘理念・信楽荘職員の心構え、デイサービス基本方針のもとに、利用者個々のケアプランに基づいた活動を通し、職員と共に楽しみ、居心地の良い場所作り、利用者に寄り添ったケアができるよう努めて参りました。

体操やアクティビティを継続することにより自ら進んで歩行や更衣にも自力で取り組まれることが増え、互いに切磋琢磨する姿を拝見し嬉しく思っています。また頭の体操やゲームなどにより笑顔が多く見られるようになりました。

利用者からは「デイサービスに来ると笑ったり・話ができ楽しい」との声を多く頂いております。

咽詰り予防、誤嚥予防のための食前体操も継続していきます。

デイサービス定例会議では、利用者の処遇の確認、見直しの為の話し合い、知識を豊富にするための勉強会を行いました。

今年度には、接遇マナー・認知症の特徴とコミュニケーション・感染症対策・身体拘束防止（スピーチロック演習）・リスクマネジメント・健康体操の勉強会を行いました。

演習をすることで利用者の立場になり、職員の声掛けや態度を改めて見直すきっかけとなりました。結果職員の言葉遣いや語尾の上げ下げ、歩くスピードなど気をつける点もいくつかあり、職員同士がお互いに注意し日々の関わりに活かすよう取り組んでおります。

今年度のご利用数は、1日平均27名となりました。

前年度から課題となっていた個別機能訓練についても実施可能となります。一人でも多くの方に利用していただけるよう働きかけています。

## 居宅介護支援事業

在宅高齢者の方々に対し、様々なニーズに応えるべく各関係機関やインフォーマルサービス及び地域住民の方々との連携が昨年度よりもできていたように思う。事業所及び地域連携についても民生委員の方々との交流を図ることができ、困難事例におきましても地域と事業所と上手く連携することが出来ました。

医療とのつながりについては医療連携情報により安心して在宅生活を送れる環境作りが出来ています。

信楽地域の医療を考える会発足から3年、地域の事業所同士の顔の見える関係から、次の段階に進み今までよりスムーズに連携が図れるようになり、大きな進歩であると考えます。



担当利用者数の伸びは昨年度と比較すると、他の法人が事業所を閉められたことも有り一時的には増加しましたが、入院・入所・死亡される数は少なくなく簡単に稼働率が上がっているとは言えない。

利用者のニーズを把握する点については、より深く関わり本人のニーズを把握する事ができたように思います。

## 栄養調理管理課

利用者、個々の状態に合わせた食形態の提供により安全、安心な食事の提供を行うことができた。また、創立記念お祝い弁当や、夏祭り屋台、クリスマス特別献立、おせち料理などの提供を行った。おせち料理については、お正月らしさを感じていただきたいと願い重箱での提供で楽しんでいただいた。行事食、季節食からは季節を感じ楽しんでいただけたのではないかと感じている。

また、3食の食事提供だけでなく目からも楽しみにできる手作りおやつにも力を入れ、紅白饅頭やミルクレープ、クリスマスケーキなどの提供を行い高い評価をいただきました。厨房職員それぞれの意見を出し合い考案から仕上がりまでチームみんなで取り組むことが出来たのは職員のやりがいにも繋がりました。

フェイスブックを通し厨房の食事提供の様子を幅広く外部にも発信することが出来た。

こうした活動は調理師の技術の向上と発想、働きがいにもつながり職場の活気にも繋がった。29年度より調理師のラウンドも行い利用者の生の声を聴き調理にも活かすことが出来た。また衛生部門では職員個々が衛生管理にも注意し、食事を通し利用者の健康増進と社会参加もできたと考えます。

## 看護課

入居者がその人らしく健康で楽しく暮らせるよう、日常の観察・情報収集・情報の共有を行い疾病の早期発見に努めました。毎朝申し送り、伝達をして職員の情報共有に努めました。

必要に応じた外来受診（246名）入院（68名）に関わる情報提供、急変時の迅速な対応や日々の適切な処置を行い、医療機関との連携に努めました。救急車要請・褥瘡交換・インシュリン注射・フォルテオ注射1名実施

入居者及び職員の健康管理については、健康診断の実施（86名）インフルエンザ予防注射の計画と実施、嘱託医に報告することで必要な精密検査に繋がりました。

カンファレンスの参加は、抜けることなく参加でき介護職との連携が図れた。

家族、他職種と連携を密にしてターミナルケアの充実を目指しました。（勉強会・研修）現在3名の看取りの入居者がいます。経過が長期化しているケースがありますがケアは充実していると考えます。共により良い最期を迎えられるよう努力してまいります。

## 防火・防災対策

防火・防災に向け「具体的な避難方法の周知と職員一人ひとりの意識の向上」を図るため、2回の避難訓練、消火器・消火栓の訓練 1回の緊急連絡網訓練を今年度も実施しました。今年度より災害時における緊急避難場所として施設及び土地を使用することになり、地震、風水害等の災害が発生した場合、地域住民の安全を確保するための緊急避難所としての機能を果たせるように設備・点検を実施しました。

## 職員体制・職員の処遇

職員のモラルの向上を図るために「信楽荘 理念」「信楽荘職員の心構え」を唱和し利用者の立場に立ち温かいおもてなしができるよう常に心がけてきました。

職員の質のレベルアップ、適切な人事考課の仕組み作りの第一歩として、施設全体で共通の自己評価票を検討し、今年度個人面談で使用しました。

事故防止についても、取り組みが停滞・マンネリ化せず取り組みの振り返りや可視化、継承が可能となるよう、今年度も各部署の取り組み発表会を企画し、開催しました。

又、各種の研修会への積極的な参加を促し、職員会議や定例会議において復命会を行い、さらに新人研修・施設内研修を実施しました。職員の資質向上を図り、合わせて各種資格の取得を奨励しました。

今年度は介護技術チーム（プロジェクトチーム）を立ち上げ各部署の技術の底上げ、チーム全体の質の向上に繋げるため6回の会議と、実技講習を実施しました。

## 地域との連携・施設の地域開放

学校関係・保育所・町文化祭作品展示展・見学等との関わりを深め利用者とのふれあいや納涼祭・運動会等の行事にも積極的に参加し交流を図りました。

又施設の広報誌（老寿）を3回発行、今年度は2箇所地域の敬老祝賀会のアトラクションの出演依頼があり職員が訪問し大変喜んでいただきました。

地域や小学校・中学校の生徒を対象に認知症予防の講話をすることで幅広く地域の皆さんに知っていただくためのPRのきっかけとなりました。

## ボランティアの受け入れ

町内全域の有志の方々による清掃ボランティアの受け入れや、日赤奉仕団による昼食献立ボランティアの受け入れ、将棋ポイントボランティア、民生委員さんによる清掃奉仕、年末餅つき大会のお手伝い、家族会の方の年末大掃除とたくさんのボランティアの方に支えられました。

## 施設管理の取り組み・企画室

管理職制度による毎月の定例管理職会議や企画室会議において施設内の業務や環境の改善、委員会の充実など職員間の連携を図るよう務めてきました。

また信楽荘のフェイスブックを作成し行事などの記事を投稿し、地域の皆さんに知って頂く良い取り組みとなりました。

グループウェアサイボウズ Live（無料ソフト）を活用して、チーム内の情報も共有することが出来ました。（信楽荘全体の行事・企画室の議事録、企画案、進捗管理・宿直の連絡）新業務ソフトにつきましては、企画室メンバーを中心に次期介護ソフトについて検討しH29/4/1 本格運用開始しました。記録については、スピードアップ・ペーパーレス化ができ効率よく業務ができています。

## 樹の郷

### 社会福祉事業

(1) 第1種社会福祉事業

特別養護老人ホーム「樹の郷」

ユニット型特養

定員 110名

(2) 第2種社会福祉事業

(イ) 老人デイサービス事業 「樹の郷デイサービスセンター」

小規模型 通所介護

定員 15名

(月～金曜日)

(ロ) 老人短期入所事業 「樹の郷ショートステイサービス」

定員 10名

### 公益事業

(1) 樹の郷居宅介護センター

## 樹の郷基本理念

「樹の年輪 樹の温もり 絆と共に」

村人さんを取り巻く私たちが一丸となって  
村人さんの思いに寄り添い  
村人さんを支えていきましょう

「木造」という暖かみのある建物で、その木の暖かさなど、いろいろな暖かさを利用者にも、提供できる「樹の郷」を目指します。

愛情と優しさと思いやりを基本とし、職員・家族、地域の三者が互いに絆を深めあって、村人（入居者）を大きく包み込み、大木へと成長を遂げられる施設を目指します。

## 樹の郷行動指針（合い言葉）

- 一つ、寄り添う心。
  - 一つ、家族や地域との結びつき。
  - 一つ、常に新しい気築きを求めて。
- 私たちは、温もりのある、樹の郷を目指します。

## 特別養護老人ホーム樹の郷（太陽、月、泉、緑、光、大地の村）

平成27年度は、特養の定員を110名に変更しました。また介護保険制度が大幅に改正され介護報酬が大幅に減額されました。大変厳しい状況ではありますが、これまでと変わらない施設での生活を過ごして頂けるよう施設内外の行事やイベントを企画し楽しんでいただきました。ケアプランについては、施設ケアマネジャーを中心に生活相談員、ユニットリーダー、担当ケアワーカーや看護師などの多職種と連携をとり、家族様にも担当者会議に出席を頂きケアプランの作成を行いました。

村人様がさらに快適に暮らしていただけるよう必ず月1回はユニット会議、村会議を行い、ケアプランに基づく処遇の統一や、介護についての勉強会、職員の意識の統一、事故防止（リスクマネジメント）については、アクシデント報告書やヒヤリハット報告書を分析し、ユニット職員全員で事故が防げるよう取り組みを行いました。

また様々なレクリエーションや行事、外出等を行いました。委員会活動は、サービス向上、苦情、事故防止、行事の各委員会を開催し、村人様が快適に施設生活を過ごしていただけるよう行いました。身体拘束については、委員会活動で人権を尊重した介護が出来るよう話し合いをしました。

## 短期入所生活介護（ショートステイ、光の村）

平成27年4月15日に定員を20名から10名に変更しました。稼働率は平均86%でした。利用者が快適に過ごして頂く為に居室内やリビングの設えを工夫し、笑顔を一つでも多く増やせる様に、利用者目線での支援を行い利用者様の意思を尊重した介護を行いました。職員や利用者同士とのなじみの関係作りを進めました。

利用者については水口の方を中心に利用して頂き、甲南、甲賀、土山方面や日野町や竜王町の方などもご利用頂きました。在宅生活が長く続けられるよう、残存機能を活用しADLの維持を目指し、レクリエーションを積極的に行いました。在宅のケアマネジャーと連携を取り、担当者会議にて他事業所や家族様と情報を共有し、利用者処遇の向上に努めました。

## 通所介護（デイサービス）

今年度については、主に水口町の方が利用され、稼働率は47%で昨年度とほぼ同じですが、今年度より介護報酬が大幅に減額されておりかなり厳しい状況になっています。新規利用者を増やすべく今後とも居宅ケアマネに働きかけて行きます。

介護予防を含め利用者個々のケアプランに基づき、日常生活上のお世話や個別の機能訓練、レクリエーションを通じ、楽しく居心地の良い場所の提供を目指し実施しました。デイサービスを利用することによって在宅生活が充実し、利用者様の社会的孤立感の解消および心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的および精神的負担の軽減を図りました。

## 居宅介護支援センター

在宅の高齢者に対し様々なニーズに応じていくため、1名のケアマネジャーではありませんが、水口町の方を中心に平均32名の方のケアマネジメントを各関係機関と連携をとりながら行ないました。

様々な利用者のニーズを的確に把握し、サービスにつなげられるよう支援を行いました。積極的に要支援の方を受け入れ、その方が要介護になられても支援できる体制をとりました。

## 職員体制、職員処遇

研修委員会にて研修計画を作成し、事故防止や感染対策、職員の健康管理や人権学習等の各種研修会を実施しました。職員の資質向上を目指し各種資格の取得を奨励しました。

## 利用者の健康管理

石塚内科クリニック石塚泉医師のもと村人様110名の健康管理を、看護師を中心に行いました。また今村医院の常見医師については精神科を中心に診察して頂きました。感染対

策については、年度末にインフルエンザ感染症が発生しましたが、適切に対処する事により感染拡大を防止しました。

感染対策委員会は看護師を中心に各職種が共同でインフルエンザやノロウイルス対策をし、感染対策教育についても積極的に取り組みました。

## 栄養管理（給食関係）

委託業者と管理栄養士が連携をとりながら、利用者様への食事提供については季節や行事などに合わせメニューを工夫し、利用者様に食事を楽しんでいただける取り組みを行いました。毎月の体重測定を行い、個人の状況、状態にあった栄養ケアマネジメントを多職種と連携をとりながら作成して、利用者の生きる意欲や楽しみにつながる食事の提供を行いました。

## 防火防災対策

樹の郷は木造建築である為、防災については細心の注意をし、万が一の火災や災害の発生に備えて、避難訓練、消防訓練、通報訓練を7月、11月、3月と行いました。非常用備蓄品については、賞味期限などをチェックし、不足分については整備をしました。

消防設備の点検についてはサンアラム（株）にて8月と2月、また日々の点検については防火管理者が行いました。

## 地域との連携、ボランティアの受け入れ

施設行事やイベントなど地域の方に知っていただく為、広報誌を伴谷地域の新聞折り込みに入れ配布しました。伴谷自治振興会の文化祭に作品を展示し、見学をさせていただきました。

伴谷東小学校との交流を行いました。4年生の方が樹の郷に来ていただき村人様との交流を行いました。また運動会には招待を受け、見学と玉入れに参加しました。音楽会については見学をさせていただきました。4年生を対象に認知症とはどのような病気かに行った内容を伴谷小学校にて講義を行いました。

ボランティアについては甲賀市のボランティアポイント制度を利用した方やその他舞踊の慰問、紙芝居、書写、話し相手、施設内清掃等を行って頂きました。